

里山の修復活動を通じた環境理解教育の実践

キャンパス里山を素材とする人間と自然の相互作用の理解と環境倫理の養成

2007年12月22日

近畿大学農学部
里山専門委員会委員長
現代GP取組責任者
池上 甲一

報告内容

1. 目的と事業のフレームワーク
2. 現代GP採択以降の主要取組内容
3. 今後の課題と整備・活用方向

1. 目的と事業のフレームワーク



農学部キャンパスの魅力 1

- 西日本の典型的な里山環境
- 都市に近い里山環境



農学部キャンパスの魅力 2

- 奈良県版レッドデータブック記載種が生息
- 生物の多様度が高い
- キャンパス内の里山

→ 日常的な接触・体験が可能

農学部キャンパスのRDB種 1



オオムラサキ



農学部キャンパスのRDB種 2



農学部キャンパスのRDB種 3



オオタカ

修復の必要性



里山と生物多様性の捉え方

- 里山の恵みのゆえん
- 人に馴れた自然
- 多様で有機的・総合的な空間構成
- 日本的なビオトープ
遷移を人工的に止める: 定期的な攪乱
- 動植物の生存戦略に人間が手を貸している

本取組の目的

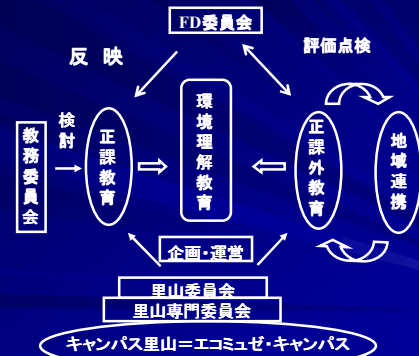
★環境理解教育の推進

1. 里山を素材に人間と自然とのかかわり合い (相互交渉過程) についての洞察と生命への愛情を育むこと
2. 持続可能な社会に向けた環境倫理を身体に内面化させること

本取組の内容・ポイント

1. 農学教育(専門性)の基盤に備えるべき教養教育
農学の視点からの教養教育
2. 実践と経験の蓄積→経験知と科学知
3. 地域からの学びとコラボレーション
4. 学生参加型の教育:企画運営、教える側に
立ってみる、そのための学生インストラクター

教育課程の基本的考え方



具体的な教育課程

★正課教育

- ◎基礎ゼミ(必修、1~2回)
- 以下は選択
- ◎里山演習
- ◎里山学
- ◎環境教育
- 学外専門家、地元農家、地元行政、NPOからの協力

★正課外教育

- ◎里山整備・保全
- ◎里山調査
- 5班の自主活動
- ◎体験学習・里山観察会開催
- ◎学外イベント参加

学生インストラクター

2. 現代GP採択以降の 主要取組内容

里山インストラクター制度

★認定条件

- 正課教育
里山演習、環境教育、里山学
+ 1, 2年配当の共通科目から6単位
- 正課外教育
生態調査班+保全活動等への参加
- インストラクター養成講座(講師はNPO)

2006年度末に、17人を試験後に暫定認定(初級)

正課教育

2007年4月からカリキュラムに反映

- 基礎ゼミ(全学科対象、1年前期に1回)
インストラクター候補者のアシスタント
- 里山演習 全5回 5学科から80名の参加
里山のシンボルフィッシュ
植物・動物標本
水量・水質調査
微生物の世界
間伐実習

里山学連続講座

2008年から単位認定(2年配当)

★通年で5回 3時間

外部講師: 広い視野、実践者

内部講師: 里山を捉える専門的視角

2006年: 奈良県明日香の棚田保全

兵庫県豊岡市コウノトリの野生復帰など

2007年: シナイモツゴの保全

マツタケの復活に向けて

森と海の物質循環

里山的な暮らし など

里山学連続講座 2007年第3回



正課外教育

★里山の修復・保全活動

棚田の修復、溜池の外来種駆除、間伐

★里山の調査・研究活動

生態調査班、学生団体(メダカの学校)による定期的調査

★里山を利用する交流・連携活動

奈良県、奈良市との協定締結

学生団体(FeeLink)による環境教育

里山観察会、標本等の展示、その他

小学校との共同活動など

棚田ビオトープ① 造成



2006年5月

棚田ビオトープ② 収穫



2006年10月

外来種駆除作戦・ため池生物調査



間伐作業 林内整備



生態調査班の構成

動物班

脊椎動物班

水生生物班

鱗翅目班

半翅・直翅目班

鞘翅目班

植物班

草本班

樹木班

メダカの系統飼育および実験



←実験水田における
実験風景

採捕調査→



自主的な勉強会・観察会



←勉強会

校内観察会→



小学生対象の環境教育①



小学生対象の環境教育②

とどろみの森「手作りの里山整備活動」



子供たちと
一緒に
ダイスを
植えました!



インストラクター養成講座・ インストラクター活動



3. 今後の課題と整備・活用方向

課題

★リスク管理

フィールド型教育にはリスクが付き物
怪我や事故、スズメバチやマムシなど

★全学的な取組への拡大

★教育効果の把握と教育モデルの構築

参加者の自己評価による効果把握の分析中

★外に開かれたフィールド・ミュージアムへの道筋



今後の方向

近畿大学農学部は
エコミュージアムとしての里山を
めざします

地域社会に学び(伝統知・生活知)
地域社会と大学(科学知)の
協働によって
あたらしい知の形と
持続可能な社会を提案します



ご静聴ありがとうございました